

# 日 巖 尼 御 前 御 返 事

弘安三年十一月二十九日 五九歳

弘安三年十一月八日、尼日巖にちごんの立て申す立願りゅうがんの願書、並びに御布施の錢一貫文、  
又た太布帷子ふかたびら一つ、法華經の御宝前並びに日月天に申し上げ候おわひ畢んぬ。其の上  
は私ばかに計り申すに及ばず候。叶ひ叶はぬは御信心により候べし。全く日蓮啓がとがに  
あらず。水澄すめば月映うつる、風ふけば木揺ゆるぐごとく、みな澄の御心は水のごとし。  
信弱のよは濁きはにごるがごとし。信心潔のいさぎよきは澄すめるがごとし。木は道理のご  
とし、風のゆるがすは經文をよむがごとしとをぼしめせ。恐々。

十一月二十九日

日 蓮 花 押

日 巖 尼 御 前 御 返 事